

第6回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー - 会議

(平成31年4月19日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
干潟の表土は仮置きから一年経過している。表土の土砂性状の確認(固結状態等)のため、水中に表土を入れた際の、土砂のほぐれ具合について次回の検討会までに確認すること	ご指摘の通り、没水時の表土の状態を確認いたします。

2. 平成30年度冬季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
水質の連続観測結果について、2019年2月末～3月末にかけて、表層よりも底層でD0が高くなっている。これは、この時期に東京湾の一次生産(植物プランクトンによる光合成)が盛んになり、酸素が豊富な海水が下層に流れ込んでいるためである。この時期の水象としては正常な現象であるため、解説を記載すること。	ご指摘の通り、連続観測結果の結果として解説を記載いたしました。
水質の連続観測結果について、2019年3月に底層D0が過飽和になっている時期がある。上述の、一次生産に起因する要因の他に、ロガー計の校正の影響を受けている可能性もある。校正の影響について把握できるように、現地で測定した水質計の結果をロガーの結果グラフにプロットすること。	ご指摘の通りグラフに現地測定結果を追記いたしました。
鳥類について、今年の冬にハマシギがまったく見られなかったことについて、何か参考情報はないか(周辺の干潟でも越冬のハマシギが少なかったなど)。 ハマシギは典型種であり、越冬時の個体数は安定している。昨冬は80羽がカウントされているにもかかわらず、今年の冬がゼロだったのは気がかりである。	全国一斉シギ・チドリ調査の多摩川河口調査地点の冬季の経年変化(2006年～2017年)をまとめたところ、ハマシギが出現しない年も確認できました。このことから、ハマシギは多摩川河口を毎年必ず利用するとは限らないこと、あるいは越冬期間中、恒常的に利用するとは限らないことが示唆されました。

3. 平成 30 年度環境モニタリング調査報告書案

意見・指摘事項	対応
ヤマトカワゴカイは多摩川河口では工事前からほとんど出現していない。そのため、本環境調査でも工事前と同様に出現していない。工事による影響ではなく、施工区域周辺にはほとんど出現していない種であることを明記すること。	報告書には「ヤマトカワゴカイは多摩川河口域では、近年個体数が減少している。本調査でも施工前の調査からほとんど出現しない。」と記載いたしました。
出水等による土砂の堆積や流出について把握できるように、深淺測量も実施しているのであれば、ヤマトシジミの減少について裏付けのデータとして示せるよう、今後も継続的な調査を実施してほしい。	今後も深淺測量による地形変化の把握、底質および底生生物調査については継続的に実施していきます。

4. その他指摘事項

意見・指摘事項	対応
環境調査の結果、毎年 2 月の冬季調査でアユの仔魚が確認されている。孵化後の降下アユについても追加で調査する必要がある場合、河口域で塩分躍層が形成される場所であることから、調査計画を策定する際には、仔魚が分布する水深や河川内の場所（流心あるいは岸側）等の条件を既存資料等で把握した上で、調査水深、調査地点、調査時間等を設定すること。	ご指摘の通り、降下アユについて追加調査する必要がある際には、既存資料や先生方にご指導いただいた上で、計画を策定いたします。